

平和記念だより

◆編集・発行：高松市 人権啓発課 高松市平和記念館
◆連絡先：高松市松島町一丁目15番1号
たかまつミライエ5階
TEL:087-833-2211 FAX:087-833-2244



高松市戦争遺品展

平成30年7月19日（木）から25日（水）まで、瓦町FLAG2階コンコース（瓦町駅改札前の広場）において、「第28回高松市戦争遺品展」を開催しました。高松空襲の被害状況が分かる市街地図、焦土と化した写真、戦時下の暮らしを写したパネル多数のほか、集束焼夷弾の実物大レプリカなど約70点近くを展示しました。

今回、初めてこの場所で開催しましたが、多くの皆様に見ていただくことができました。

瓦町駅や瓦町FLAGへの通りすがりに立ち止まって、展示資料をスマートフォンで撮影したり、ガラスケースの前にしゃがみこんだりして、多くの方が興味津々で見入っていました。

今回の「最近の寄贈品」展示コーナーでは、フィリピン・ルソン島で戦死した高松市出身の日本兵の「皇軍手帖（帳）」を展示しました。これは、この手帖を保管していた米国人に、「持ち主の関係者の方にお返しいただきたい。」と頼まれた横浜在住の方から、当館に送付いただいたものです。

当館で、手帖に記載の住所を手掛かりに、地元の皆様に照会したところ、幸いにも持ち主の関係者の方と連絡をとることができました。

関係者の方は、「当館で平和意識の普及・啓発に役立ててほしい。」とのご意向であったため、寄贈を受けたものです。



連日の猛暑の中、幅広い年代の方にご来場いただき、誠にありがとうございました。

高松市戦争遺品展 ご来場者アンケートより

1945年7月4日、朝4時に起こされた。緑の稲の一面に、真っ赤な焼夷弾がズボズボと突き刺さって燃えていた光景が目には浮かぶ。

屋島の南端、築地・塩上・松島町あたりの地域が赤く燃えていたと思う。祖父の着物にしがみつき、電柱の陰に隠れて恐怖におののいた。空襲後、夜が明けて、カラスがたくさん飛んできたように見えたが、それは、黒い何かの燃えカスであった。空一面が真っ黒で、まるでカラスの群れのように見えたのは忘れられない。

(1939年生まれの男性：当時牟礼町在住)



高松空襲を体験された方々が、パネル等を見ながら当時の様子を語ってくれました。

高松駅（現高松築港）から栗林公園北門まで路面電車が走っていた。高松空襲後、線路がアメのようにくにゃりと曲がっていた。

(1940年生まれの男性：当時多肥町在住)



ナスの木に、幅1.5cmで長さ60cm程度の平たいテープ状のアルミホイルのようなものが大量に巻き付いて、ジャリジャリと音を立てていた。高松空襲後、夜が明けることはなかった。

市街地の激しい焼失で黒煙が上空に立ちこめ、真っ黒な燃えカスが空を覆いつくし、一日中空は暗いままだった。

(1939年生まれの女性二人連れ：当時牟礼町在住)

運動場はさつまいも畑となり、遠足に出かけてはイナゴを捕って食べた。食用ガエルは美味しかった。

食べ物には困窮した。母親が農家へ出向き、着物を米に替えた帰途で警察に没収されたこともあった。

(1933年生まれの女性：当時扇町在住)



当時のお話を聞かせてくださったり、アンケートにご協力いただいたりした皆様、誠にありがとうございました。

高松空襲写真展

平成30年6月29日（金）から7月9日（月）まで、高松市平和記念館映像学習室において、「高松空襲写真展」を開催しました。

展示したこの水彩画は、川根啓子さん（当時16歳）が、10年ほど前に、忘れることのできない惨状を思い出して描いた絵です。



川根啓子さんが描いた絵

川根さんは、「あたり一面の炎の海で逃げ惑う中、家族とはぐれて、霊源寺池に飛び込んだ。」とのこと。戦争の恐怖を風化させることなく、後世に残しておきたいとの思いで、当館にこの絵を寄贈されました。

来場された空襲体験者の方数名が、この絵の前で、「何十年経っても忘れられない恐ろしい記憶であり、戦争の恐ろしさを伝えていかなければならないと思った。」と口々に語られていました。

戦争・原爆被災展



平成30年8月2日（木）から8月8日（水）まで、長崎市と共催で市民交流プラザIKŌDE 瓦町展示コーナーにおいて、「戦争・原爆被災展」を開催しました。

長崎市から運ばれた、パネル64点、被災物資料10点余りを展示しました。これらのものは、被災の実相を伝える無言の語り部です。

昨年1月、田上^{たうえ}長崎市長が、在日アメリカ大使館を訪問した際、当時のケネディ大使がオバマ大統領からお預かりしていたとして寄贈された折り鶴2羽のうちの1羽（写真右）も展示しました。



古くから外国への玄関口として発展してきた港湾都市・長崎が、1945年8月9日午前11時2分に、日本に投下さ

れた二発目の原爆によって、一瞬にして壊滅し、約7万4千人の命が奪われました。

長崎市は、核兵器の恐ろしさと平和の大切さを感じてほしいとの趣旨で、このような催しを全国各地で開催しており、香川県では今回が初めての開催となりました。



長崎平和推進協会の米澤祐樹氏が説明

收藏品紹介59 写真週報

提供者 宮脇 哲郎 様

「写真週報」は内閣情報局が毎週水曜に発行した週刊誌であり、1938年（昭和13年）2月12日の第1号から1945年（昭和20年）7月11日の第375号まで発行された。

この1944年（昭和19年）発行の第314号は、「学驚の出撃近し」と題した学生の出陣を特集しており、提供者の父親が保存していた当時の新聞や雑誌のうちの一つである。

高松市平和記念館では、第144号と第165号から第357号までを収蔵している。

表紙に関連した女性の労働についての見開き記事には、「工場があなたの花嫁学校だ。」「あなたの身も心も決戦乙女に生まれ変わっていく。」の言葉が盛り込まれており、当時の国策や国民の暮らしを知ることができる貴重な資料である。



1944年3月22日発行の第314号

▼今後の行事予定▼



高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

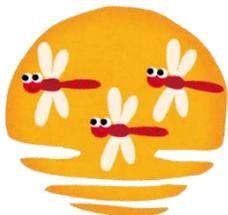
期 間 平成31年2月20日（水）～27日（水）

場 所 塩江コミュニティセンター

内 容 市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

編集メモ

平成最後の夏は、気象庁が異常気象と発表するほどの記録的な猛暑となりました。気象庁のホームページで、高松市の最高気温を検索してみたところ、高松空襲のあった1945年7月4日が32.5度で、*平均値より3度近く高温でした。（*1981年～2010年の30年間平均値）



また、玉音放送のあった1945年8月15日が32.9度で、平均値よりも0.4度高い記録になっていました。やはり本当に終戦の夏は暑かったのです。

平成から新しい年号へと時代は移り変わりますが、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考える場として、高松市平和記念館をどうかご利用ください。

高松市平和記念館 開館時間：9時～17時 休館日：毎週火曜日 入館料：無料

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>